機能ＩＤ	項番	枝番	機能名称	機能要件	実装区分	適合基準日
0120055	1.2.12.	3		・負担区分	標準オプション機能	
0120056	1.2.12.	4		・選定された類似土地	標準オプション機能	
0120057	1.2.12.	5		・前年度（比準）課税標準額算出区分（実際の前年度課税標準額、比準課税標準額、平均負担水準により算出した課税標準額の別）	標準オプション機能	
0120058	1.2.13.	1	分合筆処理	分筆・合筆処理（誤った処理を行った場合には、再異動により元の状態に戻すことが可能であること。）ができること。 分筆処理について、分筆される筆を最低でも50筆は一度に入力できること。 合筆処理について、合筆される筆を最低でも50筆は一度に入力できること。	実装必須機能	令和８年４月１日
0120277	1.2.13.	2		分筆・合筆処理において、合筆によって地番が存在しなくなった筆については閉鎖とすること。 また、分筆・合筆処理に誤りがあった場合には、分筆により誤って作られた筆については閉鎖とし、合筆によって誤って削除された筆については閉鎖を解除できるようにすること。	標準オプション機能	
0120059	1.2.13.	3		分筆・合筆処理後に税額の再計算が行われていない土地については、システム画面上で確認できること。	標準オプション機能	
0120060	1.2.13.	4		確認帳票（チェックリスト）として出力し、紙でも確認できること。	標準オプション機能	
0120061	1.2.13.	5		分筆・合筆処理（誤った処理を行った場合には、再異動により元の状態に戻すことが可能であること。）の際に引き継いだ地目を変更できること。	標準オプション機能	
0120062	1.2.13.	6		分筆・合筆処理を行う際に、メモを入力できること。	標準オプション機能	
0120278	1.2.13.	7		分筆・合筆処理に係る異動履歴を削除できること。	標準オプション機能	
0120063	1.2.14.			土地登記情報マスタ上で分筆・合筆処理を行った場合に、次年度土地（補充）課税台帳に手動反映するか自動反映するか選択できること。ただし、登記原因年月日が賦課期日後から次年度土地（補充）課税台帳が作成されるまでの間においては自動反映されないこと。	実装必須機能（※）	
0120064	1.2.15.	1	仮換地等の設定	土地区画整理事業に伴う仮換地等の設定ができること。	標準オプション機能	
0120065	1.2.15.	2		仮換地と従前地を設定し、紐づけできること。	標準オプション機能	
0120066	1.2.15.	3		仮換地・従前地のいずれか（または両方）に課税するか選択できること。	標準オプション機能	
0120067	1.2.15.	4		保留地を設定できること。	標準オプション機能	
0120068	1.2.15.	5		保留地について課税するか否か選択できること。	標準オプション機能	
0120069	1.2.16.			ＣＳＶ等の汎用的な形式のファイルから仮換地、従前地、保留地情報を取り込み、土地（補充）課税台帳上の従前地に対応する仮換地、保留地情報を一括で更新できること。	標準オプション機能	
0120070	1.2.17.			仮換地の土地（補充）課税台帳を基に換地後の土地（補充）課税台帳を作成できること。	標準オプション機能	